

第5回

海洋観光・

海を身近に懇談会

(1) 東京湾内における観光船でのミニクルーズの魅力と見どころ

東京都観光汽船株式会社 代表取締役 守谷 慎一郎様

(2) 船旅の魅力の情報発信方法

株式会社JTBパブリッシング 取締役 楓 千里様

(3) その他 (意見交換)



「東京湾内における観光船での
ミニクルーズの魅力と見どころ」

東京都観光汽船株式会社 代表取締役 守谷 慎一郎様

※コメント動画は、Facebookにて配信中！

当社の東京都観光汽船株式会社では、東京都の隅田川と東京港を結ぶ観光船の舟運事業を行っています。東京において舟運が生活に不可欠かという、必ずしも必要ではありません。そのため、極めて不安定な職業のため、「究極の水商売」という自覚があります。

江戸・東京（隅田川）における舟の活用についてですが、東京ならではの歴史に触れますと、東京の水域は、川の河口と海とが交差する部分が多く、①浅い、②低い橋、③高い堤防という航路環境として、物理的制約の多いものとなっています。

江戸時代から、舟は盛んに使われており、重要な物流の拠点の水際に作ろうということで、内陸水運網の整備が行われました。その後、明治・大正期には、橋がかかっていないため、旅客舟運というものが出てきて、舟は交通ネットワークの重要な役割を担っていました。しかしながら、戦後の東京オリンピックを迎えるにあたり、堀や川は埋め立てられ、その後の高度成長期には、公害等の問題で、川の水質は汚染されていきました。現代では、昭和50年代に隅田川花火大会が復活し、高いコンクリートの壁で作られた「カミソリ堤防」から親水テラスへの河川環境整備が行われ、近年では、オープンカフェが増え、民間の船に防災棧橋を解放されるなど、一般の方が水辺に近づく取組が進められています。

ミニクルーズの魅力についてですが、魅力は2つあります。

1つは、普段見ることができない海拔0mからの視点や、橋を下から見られるなどの変った景色です。

2つは、10ノットの比較的ゆっくりした早さで走るの、視点が流れるところを見られるところです。

次に、ミニクルーズの最近の取組についてですが、東京では橋が低いといった物理的制約があるので、浅いところや低い橋をいつでも通れるように、「リムジンボート」という水上タクシーの運航を開始しています。これは、少人数しか乗れませんが、羽田空港や日本橋の船着場といった、従来では運航が厳しい場所へも行くことも出来、光栄なことに、英国ウィリアム王子が来日された際には、当社のリムジンボートに乗船いただきました。

また、夜景という魅力がありますので、対象を観光客だけではなく、東京に住んでいる約1千万人の人々にも、仕事が終わったあとにでも乗っていただけるよう、日の出～お台場間を20～23時頃の定期運航を始めました。

さらに、船の中にドッグランスペースを設けて、ペットと一緒にクルーズができる取組も行っています。旅客船の運送約款上では、動物は持ち込み禁止ですが、運送約款を変更し、ドッグランの施設使用料として、ペットからも料金をいただいております。

今後の課題としては、地理的・歴史的背景を踏まえ、舟運商品の選択肢を用意することが必要であり、また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、今後、ますます変化する東京に合わせた魅力ある航路の新設が必要であり、さらに、新船を導入する上で欠かせない、係留拠点の確保も考えていく必要があると思っております。



「船旅の魅力の情報発信方法」

株式会社 JTBパブリッシング 取締役 楓 千里様

※コメント動画は、Facebook にて配信中！

(株) JTBパブリッシングにおいて、「るるぶ」や「ノジュール」といった旅行情報誌に携わっています。

まず、「るるぶ」の東京エリア版での船遊びやクルージングの紹介手法を説明します。1番目は「乗り物観光」という切り口です。東京・首都圏では、JR、地下鉄以外にも、都電、モノレール、ゆりかもめ、バス、船などの様々な乗り物が楽しめ、乗ることを目的として訪れる方への紹介手法です。2番目は船やコースの特徴をストレートに紹介する例です。本日乗船した「ホタルナ」も掲載していますが、紹介する際には、単に船と運航コースを掲載するだけではなく、船内限定グルメ等のその場でしか味わえないものや、限定的に楽しめるものを紹介することで、読者の関心を引き出しています。

3番目は編集部が面白いと判断した、船を使った企画を紹介する例です。「着物・浴衣レンタル付き屋形船遊び」、「工場夜景ジャングルクルーズ」、「ディナークルーズ」など、多種多様にクルーズがありますが、まず、船で何を楽しむかということ念頭に置いて、企画・テーマに非日常が感じられるコースを取り上げるケースが多いようです。編集部は常に新しい企画を探しています。

シニア向けの旅行雑誌「ノジュール」は、書店には販売していない、年間購読誌です。すべての読者が編集部と繋がっていますので、双方向でやりとりしながら編集しています。歴史や地誌に興味がある読者が多く、東京、大阪の川廻りの掲載希望が多く寄せられています。舟運が盛んだった時代と今を重ね合わせて街を見る「街の記憶を辿る旅」を誌面で構成するのが編集者の腕でもあります。最近では、日本橋船着場の解禁に伴い日本橋やその周辺に関心が高いので、日本橋のミニクルーズを掲載しました。その際読者の興味に合わせて、下船後に楽しめる日本橋周辺の歴史スポットも紹介し、面白かったとの評価を頂いています。

また、読者限定ツアー“東京の Panama 運河”と呼ばれる扇橋閘門等を見て回る「江戸水路探索と下町そぞろ歩き」はすぐに満員となり読者の関心の高さが伺えます。ツアーに同行した編集者によると、解説者が一般的なガイド以外にも、歴史を踏まえた説明や質問への受け答えが的確であったということで、企画として面白いだけでなく、ツアーを催行する上で誰がどのように説明するのも重要なポイントだと思います。

メディアが取り上げやすい船遊びやクルージングについてですが、流域の歴史や観光スポット等と連動した企画性の高いものが肝になってくると思います。

例1：桜、花火以外の季節性を打ち出した企画

例2：若者向けの安価で意外性の高い企画

例3：学びへの関心の高い層向けのマニアックな企画（ガントリークレーンを用いて、スケルトンコンテナの積み下ろしを見る北欧のツアー）

例4：日常生活に溶け込んでいる船旅（船に自転車を乗せて日常の移動手段として利用されている大阪の渡船）

最後に要望です。防災船着場の柔軟な運用により、都内のクルーズ事業者が増えています。各事業者のHPを見て情報収集していますが、一元化された東京の船旅ポータルサイトがあると、編集企画に結びつけやすく、また、一般の方も情報を収集しやすくなると思います。



浅草文化観光センター

意見交換

守谷委員、楓委員の話、「ホテルナ」の体験乗船を踏まえての意見交換

(矢ヶ崎委員)

それでは、最初に、守谷委員と楓委員からのお話、そして、「ホテルナ」の乗船を踏まえて意見を述べていただきたいと思います。

(田久保委員)

夜のクルーズを事業として開始され、数年経過していると思いますが、乗客数や乗客の反応は、如何でしょうか。

(守谷委員)

夜のクルーズは、イベント等を催していますが、イベントによって集客数は変動します。しかしながら、乗客の中には、仕事が終わる夜の時間だからこそ、乗船される方々も確実にいらっしゃいます。

(田久保委員)



工場夜景クルーズというものは、人気があると聞いていますが、都会ならではのビルの夜景も人気で、観光の目玉にもなっていると思うので、今後も夜のクルーズを続けて欲しいです。

また、楓委員の北欧のスケルトンコンテナの積み卸し作業の話は、面白いと思いました。先日、NHKのプロフェッ

ショナルという番組で、ガントリークレーンの運転土の特集が放送されていましたが、すごい技術だと感じました。このようなコンテナターミナルの作業を船に乗りながら、見学できれば面白いと思います。

(楓委員)

クレーンでコンテナを積み下ろし、船が軽くなって徐々に浮かび上がっていく様も、海上からしか見ることができませんので、このようなものも魅力だと思います。

(矢ヶ崎委員)

他にご意見はございませんでしょうか。

(星野委員)

楓委員に質問ですが、るるぶやノジュールなどの企画については、既にあるものを現場で取材されているのか、それとも企画を提案されているのですか。

(楓委員)



ノジュールは、読者と一緒に企画を作っていますが、るるぶは、基本的に OPEN になっているものを取材させていただいています。

ところで、先程、守谷委員が説明された中で、船にドッグランスペースを設けているという話がありましたが、瀬戸内海では、ペットの取り扱いは、如何でしょうか。

(仁田委員)

瀬戸内海では、ペットはケージに入れて、手荷物という取り扱いを行っています。ドッグランといったものは、例がありませんが、長距離フェリーであれば、ペットルームを作られているところがあります。

(矢ヶ崎委員)

東京都観光汽船さんのところでは、ペット連れは多いのですか。

(守谷委員)

多数の高層マンションがある芝浦や豊洲とお台場を結んだ航路は、いわゆる生活航路として運航しております。その地域には、他にもゆりかもめやバス等の公共交通機関はあるのですが、ペットと一緒に乗れるということで、地元の方に利用していただいています。

(仁田委員)

瀬戸内海では、ペットの他に、自転車を船に乗せて移動を希望する方が多いです。車両のため、カーフェリーに乗せるのが一般的ですが、旅客船にも乗せたいという要望が有り、旅客船を活用している事業者もいます。レンタサイクルと船を使って島巡りをするのも面白いと思います。

(矢ヶ崎委員)

旅行をする際には、移動手段のつながりの利便性も、今後、大事になってくると思います。その他にご意見はございませんでしょうか。

(星野委員)

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが東京で開催されますが、港湾に与える影響等については、何か話をされているのでしょうか。



(守谷委員)

全体的な交通計画として、臨海埠頭までの交通手段は話されていますが、ただ、船の使い方というものは、あくまでも補助利用として話されています。

(仁田委員)

本日、日の出棧橋から乗船しましたが、防災棧橋のように途中で乗り降りできるような場所はあるのですか。

(守谷委員)

防災棧橋は非常に多くて、徐々に解放されてきていますが、まだまだ使えない棧橋は多いです。

(仁田委員)

例えば、築地辺りに船着場があって、浅草と日本橋で下船ができれば、魅力的になると思うのですが、築地の船着場の開発等は如何でしょうか。

(守谷委員)

現在、築地には市場があって難しいのですが、予定通りに市場が豊洲に移転すれば、今後計画されていくと思います。

(仁田委員)

広島も川の街ですので、海から川を遡って行く途中に市場がありますが、市場と航路というものは、自然なものと感じます。ですから、浅草や日本橋のような観光地に人が集まって、市場と結ぶのは、もの凄く自然な船の使い方だと思います。



(矢ヶ崎委員)

仁田委員の言われたことが、船、川、海が昔から近い存在だということ为先祖返りしながら思い出させますし、納得感が出てくると思います。

また、市場やコンテナターミナル等のものが動く様子は、人間の経済活動の根源としてワクワクさせるようなものがあると思います。

なぐも委員は、如何でしょうか。

(なぐも委員)



私が住んでいる新潟の新潟東港にも小さなガントリークレーンがあるのですが、ゲームのテトリスのように、つつい見入ってしまう不思議な魅力があると思います。

ところで、守谷委員にご質問になりますが、本日の隅田川は、水位が低いと感じたのですが、橋が低いので、水位が上がった場合に運休されることもあるのですか。

また、2020年に東京オリンピック・パラリンピックに向けて、外国人のお客様向けに魅力を伝える取り組みは何かされていますか。

(守谷委員)

まず、橋の方は、本日の水位は、非常に下がっていましたが、年間の中で満潮になって橋が通れない時はあります。また、気象条件によって大きく影響を受けますので、その際には、運休することもあります。

次に、外国人へ魅力を伝える取り組みですが、今のところ特段ありませんが、外国人対応として、本日、乗船いただいた「ホタルナ」や「ヒミコ」の船内アナウンスガイドは、銀河鉄道 009 の声優さんを使用しているため、日本語のみですが、その他の船のアナウンスは、日本語と英語を使用しています。また、隅田川については、個別に何カ国語か対応の案内機を有料になりますが、貸し出しを行っています。



(星野委員)

本日、下船した浅草の船着場では、次の乗船のために外国人の方が行列を作られていましたが、外国の方は、水上バスの情報をどこで入手されているのでしょうか。

(守谷委員)

外国人の観光客は、増えていまして、インターネットの口コミサイト等を利用されていると聞いています。

また、本日乗船された「ホタルナ」は、少人数でもネット予約が可能となっており、支払いもクレジットカードを使えるので、海外の方も利用されやすいと思います。

(矢ヶ崎委員)

事前予約と決済がネットでできれば、計画を立てやすいし、便利で安心感があると思いますね。

次に林委員は、如何でしょうか。

(林委員)



私は、隅田川沿いに住んでいますが、水面からの景色はほぼ初めてで、視点が普段と違い面白く魅力があると感じましたが、乗客の大半が観光客となっており、地元はあまり乗られていない印象があります。

船着場を増やすという話がありましたが、例えば築地に船着場があれば、銀座へ行くのに、日常の通勤等で地下鉄を使われている方も、雰囲気を変えて船を使われる方もいらっしゃると思います。中々、規制があって、難しいかもしれませんが、江戸は、水の都と呼ばれていましたので、今後、いろいろな面で、さらに船が活用されていけばいいと思います。

(なぐも委員)

船着場が多くなれば、様々な使い方が増えると思います。朝や夕方は通勤・通学に利用され、昼や土日は観光客が利用するなど、時間帯等によって使い分けの工夫をすることも可能ではないでしょうか。また、自転車も船に乗せれば、さらに幅広く有効活用が可能だと思います。

(田久保委員)

栈橋の話になりますが、2020年のオリンピック・パラリンピックまでに、可能な限り、栈橋を整備すれば、選手村の予定地が晴海ですので、晴海の近隣でほとんどの競技が開催されると思いますので、競技場までの交通手段として、船を利用していただけるのではないかと思います。

(矢ヶ崎委員)



2020年のオリンピック・パラリンピックのような大きなイベントには、影響のある方が多くいらっしゃるの
で、色々な交通手段を有効活用していかなければなりません
が、その中でも舟運の位置づけについて話は出ている
のでしょうか。

(守谷委員)

定時性や運航部分で考えると、船は台風等の気象に影響を受けやすいので、その部分
をふまえて、補完的にと聞いています。

(楓委員)

オリンピック開催の時には、首都高速は規制されると聞いているので、あふれた
方々は、船を活用してくれるのではないのでしょうか。

(矢ヶ崎委員)

世界に発信される中で、海や船がどれだけ魅力的に発信されるかと考えると、
大きなきっかけになると思います。

(楓委員)

私もそのように思います。

現在、東京湾や川を運航している事業者の協議会というものはありますか。

(守谷委員)

隅田川でいえば、桜や花火大会の時期は、狭い水域を輻輳するので、安全運航
のために情報交換等を行う協議会を開催しています。

また、その他に、関東地区の旅客船事業の協議会があります。

(楓委員)

本日、乗船させていただいて、船に乗って見ると、景観は大事だと改めて感じ
たのですが、首都高速などの景観に関して、そのような協議会から提言はされて
いるのでしょうか。

(守谷委員)

今のところ、特段できていません。

(矢ヶ崎委員)

見ている側からしたら、風景の連続性も重要かと感じたので、一部でも景観を
損ねるものがあれば、少し感じが変わってくると感じました。

(仁田委員)

景観でいえば、橋の裏にアートを書けば、船に乗らないと見るできない
ので、面白いと思います。

(田久保委員)

大阪では既に運河クルーズを楽しくする工夫がされて
いて、ある橋の下をくぐったときに、特別な光の演出が
あってその光を見たカップルの恋は成就するといった場
所などもあります



(林委員)

逆に水辺のテラスから見ていると、様々な船が行き交う風景を見るのも面白い
と思います。

(仁田委員)



話は変わりますが、桜の時期や花火大会等のイベントの時期は、注目を浴びて乗客が増えると思いますが、広島では、噴水ショーや流行のプロジェクションマッピングを利用して、原爆ドーム前の川や宮島、工場前の岸壁等でアトラクションとして行うことを考えています。このような取組がきっかけに、海や川に興味を持っていただけの方が増えてくれればと思っています。

(矢ヶ崎委員)

東京の首都高速、あまり飾り気がないですが、プロジェクションマッピングで映し出してみたら、あの立体性が違って見えてくるのではないのでしょうか。

(田久保委員)

先程、思いついたのですが、船の移動ステージというものは如何でしょうか。陸から見える場所にステージがやってきて、海辺でコンサートを行うのですが、様々な場所で可能なので、面白いと思います。

(楓委員)

別の話になりますが、北海道には川の時刻表というものがあります。これは、川に掛けられた鉄橋に、鉄道が何時に通過するか記載されているものですが、このようなものが、他の地域でもあれば、鉄道ファンが乗船したり、水辺に人がもっと集まるのではないのでしょうか。



(田久保委員)

大阪では、鉄道ではなく、船が橋に到着する「海の時刻表」を作成しています。ただし、干満の差があるので、作成は大変らしく、時刻表作成の専門の方がいると聞いています。

(矢ヶ崎委員)

その他にご意見はありませんか。

(仁田委員)

湯船という言葉がありますが、この語源は、船にお湯を積んで銭湯として使っていたことらしいです。船にお湯を乗せてスーパー銭湯を作るのは歴史に基づいているので、このような取り組みも面白いと思います。

(田久保委員)

江戸時代には、伊東から温泉を将軍に献上するために、船で運んでいたと聞いていますので、面白いと思います。

(なぐも委員)

先程の守谷委員の話になりますが、船のスピードが約10ノットで、自転車程のスピードで運航しているということでしたが、このスピードというものは大事であり、バスツアーを仕事上行っている際も、お客様からは観光地を乗り物で見て回る際には、ゆっくりが良いと聞きます。しかしながら、バスは制限速度があ



ってゆっくり走れないので、船のようにゆっくり動き、ゆっくり風景を流れながら見るができることは、大変な魅力だと思います。

また、楓委員にご質問ですが、実際に体験すれば興奮し楽しさが味わえるのですが、このような体験の魅力を紙面やネットで伝えることは難しいと思いますが、お客様に伝える際に、重要な点は何かございますか。

(楓委員)

日々、試行錯誤だと思いますが、一番は写真のインパクトで、次に意外性が重要になってくると思います。

(矢ヶ崎委員)

過去にも、北海道の美瑛町のように、無名の観光地が、写真の力で、全国的な観光地になった例はありますので、やはり写真のインパクトは大切だと思います。

(仁田委員)

写真以外にも、動画で発信するのも大事だと思います。当社の瀬戸内海汽船で運航している「広島・呉～松山航路」がありますが、この航路がグーグルのストリートビューに取り上げていただきました。このようにネットで海上航行の様子が見ることができることも面白いと思います。

(田久保委員)

隅田川の航路は、グーグルのストリートビューに取り上げられていますか。

(守谷委員)

隅田川においても取り上げていただいています。船上から撮っていますので、昼限定になりますが、橋の下の様子もご覧になれます。

(矢ヶ崎委員)

そろそろまとめに入りたいと思いますが、次長の方から何かございませんか。

(海事局 桜井次長)

本日は、ありがとうございます。

先程から、船着場が都心から離れていることや、アクセスが悪いという話がありましたが、本日、乗船した日の出棧橋やその隣の竹芝棧橋は、実際に地下鉄の最寄り駅の浜松町からも離れておりますので、やはりその面は否めないと感じています。また、船を観光面だけでなく、通勤等の短い距離でも使えるように船着場の改善の話がありました。非常によい発想だと思います。しかしながら、防災棧橋といったものは、東京都等の役所が管理していますので、中々融通性がないので、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、防災棧橋を役所だけではなく、地域のものになればよいのかと思います。そのためには、船の重要性を今後広めていく必要があります。



海事局の内航課で進めている話になるのですが、隅田川では、東京都観光汽船さんや他にも多くの事業者が船を運航していますが、中々、船着き場の周知がされていません。そこで、ロンドンのように船着き場のロゴマークを統一し、鉄道

各駅のマップに記載することで、多くの方に水上バスの拠点を紹介していこうと考えています。

(矢ヶ崎委員)



物理的な距離は縮められないですが、心理的な距離は縮められると思いますので、ロゴマークを統一することで、目的感がはっきりし、近さを演出する効果もあると思いますので、非常に素晴らしい取り組みだと思います。

本日は、何よりも良い体験をさせていただいたのですが、東京での舟運そのものが持つ力というものを改めて考えさせられました。東京は、日本で一番の人口を抱える大都会ですので、ここに住む方々に海洋や川、船等に親しみを持っていただくことは、非常に大切だと感じました。そのためには、海外や地方、地元の方々といったターゲット毎に違った発信をする必要があると思います。

それから、船に乗ると水との距離が近く感じますし、色々な角度から非日常を見ることができますが、この水辺と船に慣れるということが非常に大事ですので、最初の入門編として、観光船に乗っていただき、その後のクルーズやヨット乗船などのアクティビティに繋げられる道筋を作ることが大事だと思いました。

さらに、東京は、海外からも評価される都市ですが、夜という時間を有意義に過ごせる「ナイトライフ」がニューヨーク、ロンドン、パリに比べると弱いと評価されていますので、今日のような体験というものは、非常に良いと思います。

以上、本日も非常に実りがある意見交換会となったことを御礼申し上げます。

